

平成27年度 第5回 市長と話そう、まち育てタウンミーティング 要約版



- ・日 時 平成28年1月6日（水）午後3時30分～4時40分
- ・場 所 市役所本庁舎5階第1会議室
- ・参加者 北上市民俗芸能団体連合会のみなさん
会長 和田 國男さんほか3人
- ・市出席者 高橋市長、小原教育長、今野商工部長、阿部教育部長
及川商業観光課長、高橋文化財課長
- ・テーマ (1) 民俗芸能の保存と学校教育の関わり
(2) 学校の統合と各地区の芸能の継承
(3) 民俗芸能ファンの拡大

北上市民俗芸能団体連合会のみなさんと、民俗芸能の保存と継承、学校教育と芸能の関わり、また民俗芸能のファンやサポーターをどのように増やしていくかなど様々な視点で意見を交換しました。

(1) 民俗芸能の保存と学校教育との関わりについて

和田会長: 私たち北上市民俗芸能団体連合会は、最盛期には100団体近く加盟しておりましたが、徐々に減少し、現在64団体で活動しております。私は岩崎鬼剣舞の一員として芸能を指導しております。近いところでは鬼剣舞クラブ、北上翔南高校など。県外では京都や名古屋、シドニーからも指導を受けにいらっしやいます。しかし会長の立場としては難しい。母体となる農村の活力も無くなっているのかなというところもあります。やはり地域の元気を残していきたいという気持ちがあります。



市 長: 民俗芸能の保存については全国的に苦労していますが、同時に様々な取り組みがあります。ある小学校では毎年6年生が5年生に民俗芸能を指導し、5年生が合格するのを会の卒業の要件としています。5年生がちゃんと覚えないと会を卒業できないので6年生は真剣です。そういった仕組みを作るのがコツのようで、仕組みがないと子どもたちを集めるのは難しいのかもしれない。

和田会長: 小学校に教えに行く事もありますが、以前に比べて難しさを感じます。子どもの時間割に合わせて行くわけです。

教 育 長: 江釣子中学校では毎年芸能発表会があります。早ければ6月から週1回練習し、8月に発表会を行っています。今年で37、8回続いています。これは行政区ごとに剣舞や神楽を行っています。



市 長: それは素晴らしいですね。発表の機会を確保しているのが大きいでしょう。

菅原副会長: 鬼剣舞はまだよいのですが、他の芸能は苦しい状況にあり、全体の底上げが必要です。上手くいっている団体はあるので成功事例を共有する研修会等を考えますが、先立つものがありません。

市 長: 活動資源についても仕組みを作る必要があると思います。昔は分かりませんが、今は市としては団体の活動に対する補助は行っていません。ただし、市と団体が同じ方向性を目指す、いわば協働の事業に対してはお互いに資源を出し合います。つまり、団体は人を出し、市がお金を出すということです。ですから、そのために芸能の伝承の仕組みを考えていただけませんか。単に活動に対して補助金を出すというのは市民の理解が得られないでしょうが、市民が共感を得ることができる、問題の解決に向かう仕組みであれば、財源を出すことは可能かもしれません。

菅原副会長:何かを始めないといけないという危機感は持っています。外部から講師を呼んで話を聞くなどしても、続けるうちに新しいアイデアが生まれるかもしれません。

市長:そうですね。そのためにも団体としてお金を集める仕組みを考えなければいけないと思いますが、その辺はどうですか。

和田会長:今は文化芸術振興費補助金というものがあり、それを使って子ども剣舞や「鬼よ燃えろ！冬のみちのく芸能まつり」を実施していますが、打ち切られたら大変です。



昆事務長:そういったものは申請の際の書類が多く、手続きが難しいです。誰かやってくれる人がいればよいのですが。

市長:お金は掛かるかもしれませんが、市民活動情報センターでお手伝いしてくれますよ。

(2) 学校の統合と各地区の芸能の継承について

田鎖副会長:やはり、後継者問題が頭から離れません。学校で教えようと思っても、時間帯の制限もあり指導が難しい現状があります。いわさき小学校のように上手くいっている例もあるようですが。



教育長:いわさき小は統合にあたり、地域の芸能の伝承について地域と学校が話し合いをしました。煤孫地区のひな子剣舞は残したいし、岩崎鬼剣舞も伝統があるしと。その結果、4年生までは岩崎地区の子ども、煤孫地区の子どももひな子剣舞を習い、5年生からは岩崎鬼剣舞を習うということに決めたようです。

和田会長:地域によっては学校の統合の際に選ばれる芸能とそうでない芸能に分かれるので、両方ともやらないという意見になることがあると聞きます。

昆事務長:黒岩もこれから統合の問題が出てきますが、統合する黒岩、立花、口内、稲瀬の各地区にそれぞれの芸能がありますから、これをまとめるのは至難の業です。特に人数の少ない団体は危機感があるだろうと思います。

市長: 周りから「うちの学校はこれで行きましょう」という「うねり」を作ることができればよいのですが、そのためにもスポットライトを浴びる公演の場の確保は重要ですね。その一つが芸能まつりなんではないでしょうか。

(3) 民俗芸能のファンの拡大について

和田会長: 石川県輪島市には御陣乗太鼓(ごじんじょうたいこ)といって、毎日どこかで太鼓の公演があります。北上にとっても芸能は大きな財産ですし、毎月どこかで公演があると、目に触れる機会を増やしたいですね。



市長: 先日はスキー場でも踊っていただきましたし、イベントがあれば鬼剣舞をお願いしていますね。

昆事務長: 去年は黒岩の9団体で一日公演して、交流会を行い、大いに盛り上がりました。資金的にも苦しかったのですが、楽しかったという声を頂いたのでまたやりたいとは思いますが、お金はないし、補助金の申請は大変ですしね。

市長: やはり、資金を集める仕組みを作らないと。市民サポーターに協力してもらえるような。

昆事務長: ネットで資金を集めることができる時代ですから、スポンサーがついて御礼に公演したり、そういった仕組みができればよいのですが。

和田会長: 神楽なんかはコアなファンも多いですね。



市長: 昨年度のふるさと納税額は5億円を超えました。こういった制度を活用して、北上出身者を含めた全国のファンからサポートしてもらえる仕組みですね。公演の際には必ずおひねりをもらうような文化を作るとか。